

## 仙台スポーツリレートーク・レポート

主催 市民スポーツボランティア SV2004

私たちはスポーツボランティアとして幅広いスポーツをサポートしています。そのスポーツに関わるキーとなる方に、現在のスポーツ事情や将来への展望に関して話しを聞くことができれば、私たちの活動はもっと広がり豊かになると考え、ボランティアの栄養補給と夢の実現の場として企画したものが「仙台スポーツリレートーク」です。

---

---

第四回 「仙台・宮城のスポーツの今 ~ 地元メディアからみたスポーツ これからの可能性」

スピーカー 河北新報社 営業企画部長 児玉 聡 さん

日時 2010年10月13日(水) 19時~21時

会場 青葉中央市民センター 第一会議室

参加者 ボランティア関連 15名



本日の講師児玉さんはさまざまなスポーツを地元メディアの立場でサポートし、特にプロ3チームの支援組織にその立ち上げから関わり、チームだけではなく支える人にも力点をおいて取り上げるなど、ボランティア活動にも大きな影響力を与えています。

私は現在河北新報社でプロスポーツ対応の窓口をしていますが、そのきっかけはワールドカップがありベガルタが最初のJ1シーズンを戦った2002年に社内に「営業推進室」ができたことから始まります。それまでのあらゆる対外活動が縦割りでも有効に機能していない反省のもと、組織を横串でさし連携していこうという狙いでした。その後ご承知のように2004年9月に「ライブドア」か「楽天」か、いずれにしても仙台にプロ野球がくるということになりました。当時、プロ野球の興行はしていましたがとても黒字というものではありませんでした。しかし、地元でプロ野球チームができるとなると例えば取材においても「バン記者」が必要となるほか、「写真」撮影ひとつとっても従来の体制ではダメだし、アウエーの対応も必要ということで、まず北海道新聞や西日本新聞に調査に行きました。

その中ではとくに札幌の事例が大変参考になりました。北海道新聞は日本ハムファイターズに(求められて)出資をし、取材から営業まで幅広い取組みをしていました。また「北海道日本ハムファイターズを応援する会」にも参加していたのです。一方の福岡は既にプロ野球があるのが当たり前という都市で、Aクラスになるには10年はかかる言われたことが印象に残っています。その後楽天の三木谷社長にも

六本木でお会いしましたが「野球興行も仙台も詳しくない」とのことでした。正式決定以前の10月段階から折衝がスタート、11月2日に新球団が決定しそこからは包括交渉をしていくことになるのですが、地域との関係や興行についてわかる人間がほしいということがあり、当社から一名を出向させその者が新球団の「地域密着推進部」の活動にかかりました。

メディアとしてはプロ野球をどう活用できるか、ということが課題となったわけですが、大きかったのはスポンサーとしての視点をつうじて課題もみえてきたことでした。その最も重要なものが「チーム・球団」と「地域」をつなぐ仕組みが必要ということで、さまざまな経緯を経て2004年12月に仙台商工会議所といっしょに「楽天イーグルス・マイチーム協議会」の準備委員会が誕生しました。また、多くの人の協力があって2005年1月には市内中心部でパレードを実施したのですが、警備を厳重にということで新聞販売店や会議所青年部のみなさんに非常に協力してもらいました。その後「マイチーム協議会」の中には、ボランティア部会を立ち上げボランティア募集について検討したり、応援部会では応援と暴力団との関係を断ち切ることを前提としてベガルタを参考に鳴り物禁止のルールを作ったり、地域振興部会では地元の商店街にフラッグを掛けてもらったり、学校訪問や招待事業などを実施しました。

やがて2005年の3月26日の開幕に向けて球団の組織が出来ていったのですが、ファンエンターテイメント・営業・チケット・ファンクラブなどの組織を作る上で各窓口の責任者と仙台市博物館の体制を学んだりもしたものです。また親会社がIT企業ということで、仮説を立てて実行しダメならすぐに変えるスタイルで、こちらもまわりも当時は随分とまどいました。支援ということでは、現在でも北海道日本ハムファイターズを応援する会とは、互いに年一回ずつの交流会を開催しています。

次に仙台89ERSですが、とある方から仙台のプロスポーツチームなのに地元新聞社として応援しないのかといわれ2年目からスポンサードしていますし、支援組織の「イエローブースターズ」にも参加してきました。最大の課題は観客動員ということで、お客様と接する場をより多く作る必要があると考えました。現在は球団と地域を繋ぐため「子供を主役にしたイベント」や「トレーナーや管理栄養士を活用した企画」などを実施した検討しています。チーム・球団の持つ資産をいかに活用するかがまだまだしきれていないと感じています。



用意した席は全てふさがり足りなくなった。

さて仙台の3つのプロスポーツの支援組織をつなぐものとして「仙台プロスポーツネット」があります。その設立目的には「仙台はそれぞれのプロスポーツに官民一体の支援組織がある全国唯一の街」とあります。当初参考にしたのは広島「トップス広島」という組織でしたが、内容はかなり違うものとなりました。これまで「シンポジウムの開催」「同日観戦パックの実施」「プロスポーツフェスティバル」などを実施してきました。また、プロスポーツネットとは別にディスティネーションキャンペーンを契機として「観光」というものとプロスポーツの観戦がつながり、アウェーなどで仙台をアピールする取組も始まっています。

個人として現状のそれぞれの支援組織をみると楽天イーグルスの「マイチーム協議会」については、6年が経過し見直すべき点もでてきていると感じます。まだ距離感を感じる「地域密着」というものについて再度考えるべきですし、県内や東北各地の支援組織とのネットワーク活用や新球場についての検討なども必要だと思います。ベガルタ仙台の「ホームタウン協議会」については、仙台市の支援が長く続いてきましたが、参加するメンバーをもっと増やしていくことが必要ですし、観客動員が大きなテーマとなっています。J1ではアウェー客へのメッセージも考える必要がありそうです。仙台89ERSを支援する「イエローブースターズ」については、そもそも名前がよくわからないため組織の再構築が必要だと思います。89ERSについてはそれこそ超・地域密着の発想が必要で、先日壮行式を行った太白・長町(商店街など)地域との連携が始まったことは良いことです。

プロスポーツは誘客産業であり、地域への影響力の大きいものとなっています。資産の広さ・影響力の大きさ・ビジネスとしての視点などをしっかりと理解し旧来の体制にとらわれない対応が求められます。プロスポーツネットについては、専任体制のあるスポーツコミッションというものに移行することも検討すべきでしょうし、そのきっかけとして来年仙台で開催が予定されている「日本スポーツマネジメント学会」の実行委員会にボランティアも参加していただきたいと思います。

## 意見交換

長町に整備されるゼビオアリーナについて  
ボランティアの有効活用について

